令和８年８月 27 日
第 10 回会議
参考資料２

令和７年度おだわら市民交流センターＵＭＥＣＯ第三者評価

○ 各委員の評価点の平均点（４点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
3.7 (3.5)	2.8 (2.8)	2.2 (2.4)	2.7 (2.9)	2.8 (2.8)	2.8 (3.0)	2.6 (2.8)	2.6 (2.8)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.0 (3.1)	2.8 (2.8)	2.2 (2.6)

※（ ）内は前年度の評価点

Ⅰ 機能の達成状況

（１）６つの機能

①拠点機能【3.7 点】

（評価できる点）

・ＵＭＥＣＯ企画展は参加団体数 35 団体、アクティブサロンは 15 団体といずれも目標を達成し、来場者アンケートにおける団体や活動への関心度も 84%と高い結果となった。年間を通じて多様な市民活動団体の活動紹介や成果発表の場を提供し、市民活動への関心を高める機会を創出できた。

・多目的コーナーやホワイエ、活動エリアを活用し、多様なテーマの展示や体験型事業を実施したことにより、市民活動に触れる機会の拡大につながった。また、男女共同参画や防災、福祉、文化といった幅広い分野の情報発信が行われた。

（課題・改善すべき点）

・利用経験の少ない団体への参加促進に加え、複数団体によるテーマ型展示や地域課題をテーマとした企画展示等、団体同士のつながりや協働のきっかけにつながる事業展開について検討が必要である。

・団体登録については新規登録団体数が目標を上回った一方、登録団体総数は目標に届かず、未更新団体も見受けられた。確実に登録更新手続が行われるよう、登録の意義の共有を進めるとともに、活動実態の把握や活動継続につながるフォローアップを行い、登録団体の維持・活性化に努める必要がある。

②相談・支援機能【2.8 点】

（評価できる点）

・通常業務での相談に加え、県の専門相談員による出張相談会を実施し、相談者の課題解決につなげた。

・市民活動・協働応援制度補助金に係る説明会や講座の実施により、補助金応募件数は 20 件と目標を上回った。団体の資金調達支援を通じて市民活動の活性化につなげた。

（課題・改善すべき点）

・相談解決割合は高水準を維持している一方、相談件数自体は目標値を下回っている。団体運営や法人化、資金調達、人材確保など多様な相談ニーズに対応できる体制を整備するとともに、相談機能については、「ＵＭＥＣＯに行けば相談できる、解決できる」と

認識される拠点となることが期待される。専門的な相談にも対応できるよう、スタッフ全体の知識や対応力の向上に継続して取り組む必要がある。

③協働支援機能【2.2 点】

（評価できる点）

・地域とのネットワーク事業ではマッチング回数が 29 回となり目標を上回った。学校や地域団体との調整を積極的に行い、市民活動団体の活動機会の拡大につなげた。

・県西地域の自治体と連携して実施したパートナーシップミーティングでは、多様な主体が交流し、新たな協働の可能性を探る機会を創出した。

（課題・改善すべき点）

・パートナーシップミーティングの実施により県西地域へ連携の輪が広がったことを活かし、他地域で活動する団体や先進的な取組に触れる機会が生まれていることは有意義であり、今後は各地域の事業や催しへの参加・見学等を通じて、団体同士が互いの活動から学び合える仕組みづくりも期待するものである。

・企業との連携事例数は目標に達しておらず、具体的な協働事例の創出には課題が見られる。地域団体、企業、学校等のニーズをより丁寧に把握し、マッチング後のフォローアップも含めたコーディネート機能の強化に努めていく必要がある。

④学習・体験機能【2.7 点】

（評価できる点）

・市民活動入門講座は 4 回実施され目標を上回り、市民活動の理解促進や参加のきっかけづくりにつながった。また、高等学校等への出前講座やボランティア活動についての説明を実施し、若年層への普及啓発に取り組んだ。

・団体向け各種講座では受講者満足度が高く、ホームページ活用講座や補助金活用講座等、実務的な支援につながる取組を実施した。

（課題・改善すべき点）

・団体向け各種講座について今後は、団体の課題やニーズを把握しながら、より専門性が高く実践的な内容を取り入れる等、団体活動の発展に寄与する講座の実施についても検討が必要である。

・夏休みボランティア体験学習では参加者の関心度は高かったものの、参加者数は目標を下回った。また、インターンシップ受入れも実施に至らなかった。いずれも引き続き参加促進をするとともに、一過性の参加にとどまらないよう、参加体験を「次の活動」や「継続的な関わり」へと結びつける、中長期的なプログラム構築を行っていくことが重要である。

・若者が継続的に市民活動へ関われる仕組みづくりや、参加しやすいプログラムの検討を進め、市民活動の裾野を着実に広げ、将来の担い手育成につなげる必要がある。

⑤交流・コーディネート機能【2.8 点】

（評価できる点）

・第 10 回ＵＭＥＣＯ祭りでは 94 団体が参加し、来館者数も 1,800 人となった。市民活

動団体の活動紹介と交流の場として定着しており、多くの市民に市民活動への理解を深める機会を提供した。

・団体交流会や新春交流会では、若者と市民活動団体との交流をテーマとする等、新たなつながりづくりに取り組んだ。交流を通じて市民活動の担い手確保や協働の可能性を広げる取組が進められている。

・市民活動入門講座等を通じて、市民が活動の一歩を踏み出すためのハードルを適切に下げている。

（課題・改善すべき点）

・夏休み期間でのボランティア体験機会を最大活用し、年齢や目的を問わず、誰もが気軽に参加できる体制を構築する必要がある。

・交流事業については、交流そのものに留まらず、具体的な協働や活動の発展につながるような仕組みづくりが重要である。参加者のニーズ把握や成果の見える化を進め、継続的な交流の場として発展させていく必要がある。

⑥情報の集約・発信機能【2.8 点】

（評価できる点）

・情報誌の発行やＦＭおだわらへの出演等、計画どおり継続的な情報発信を行い、ＦＭおだわら出演団体数は目標を上回った。登録団体の活動周知やおだわら市民交流センターＵＭＥＣＯの認知向上に寄与した。

・ホームページリニューアル後も情報発信を継続し、登録団体への掲載呼びかけを行う等、情報発信基盤の活用促進に取り組んだ。

（課題・改善すべき点）

・ホームページやＳＮＳ等の閲覧状況を把握するための調査は未実施となっていることから、各媒体の効果検証を進め、市民活動の意義や各種事業の成果がより伝わるよう内容の充実を図るとともに、利用者目線で分かりやすい情報発信や発信内容の充実に努める必要がある。

（２）その他

①男女共同参画【2.6 点】

（評価できる点）

・男女共同参画週間展やＤＶ防止啓発展に加え、独自企画としてアウェアネスリボン展や女性科学者展を実施し、男女共同参画に関する意識啓発を継続的に行った。

（課題・改善すべき点）

・アンケート等の客観的な指標を用いて関心度を可視化することは重要であるが、今回、アンケートによる効果測定は十分に実施できなかったことから、事業成果を把握するための調査手法を検討するとともに、多様な世代への周知や啓発内容の充実に努める必要がある。

・行政との連携による企画展示に加え、大学や高校、市民活動団体等との連携も視野に入れながら、おだわら市民交流センターＵＭＥＣＯ主体による男女共同参画推進事業についても検討する必要がある。

②国際交流【2.6 点】

（評価できる点）

・文化政策課との共催により国際交流フェスタを実施し、登録団体も参加する等、多文化共生や交流の機会を提供した。

（課題・改善すべき点）

・今後は行政との連携を継続しつつ、外国籍市民や支援団体のニーズ把握を進め、おだわら市民交流センターＵＭＥＣＯ独自の国際交流事業の展開や交流機会の創出についても検討が必要である。

・イベント形式の国際交流だけでなく、日常的な困りごとの相談や、地域の一員としての繋がりを深めるための独自事業の企画・実施についても検討が必要である。

Ⅱ コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に　つながりを生み出すきっかけの場【3.0 点】

（評価できる点）

・企画展、アクティブサロン、市民活動入門講座、夏休みボランティア体験学習、ＵＭＥＣＯ祭り等、多様な事業を通じて市民活動に触れる機会を提供し、市民活動のきっかけを促す場を数多く提供できている。

（課題・改善すべき点）

・各種事業におけるアンケートでは、回収率向上を目的として、ホームページやスマートフォンを通じたオンライン回答の活用を進めるとともに、アンケートの内容を今以上に精査し、効率的な事業の検証と改善につなげることで、市民のニーズを踏まえた事業展開を実現し、各種事業が市民活動のきっかけとなる場となるようさらなる充実を図る必要がある。

・市民活動に参加するきっかけ作りとして、漠然とした関心のある人が参加しやすいよう入門講座の定期的開催や、実際に活動を見てもらうことも重要であることから、シティモスマイルステージといった既存事業の様子をＳＮＳで動画公開する等、より広範囲に情報が拡散されるような情報発信の手法について検討する必要がある。

②シェアしながら　それぞれの思いがつながる行動の場【2.8 点】

（評価できる点）

・既存事業の団体交流会や新春交流会、ＵＭＥＣＯ祭り、パートナーシップミーティング等に加え、国際交流においてあらたに行政との協働事業を展開し、多様な主体が交流し、互いの活動や思いを共有する機会を提供した。

（課題・改善すべき点）

・新規の団体と既存団体との交流が深まるようＵＭＥＣＯが企画支援を行うことで、市民活動がより活発になることが理想である。特に、交流事業では一過性で終わることなく、その先の連携を提示する等、活動の幅を広げる後押しを進めていく必要がある。

・ＵＭＥＣＯ祭りの成果検証のためのアンケートは、開催の目的を考え、団体関係者と一般参加者のアンケートは別内容とし、少なくとも関係者からの回収率は 100 パーセントを目指す必要がある。

・交流によって生まれたつながりが具体的な協働や活動の発展につながるよう、交流事業を通じて生まれたつながりや協働事例については積極的に情報発信を行い、継続的な支援やコーディネートによるさらなる連携促進につなげる必要がある。

③地域の課題を解決する　行動を社会貢献につなげる実現の場【2.2 点】

（評価できる点）

・地域とのネットワーク事業やパートナーシップミーティングを通じて、学校や地域団体、企業等との連携機会を創出し、市民活動団体の社会貢献を支援した。

（課題・改善すべき点）

・地域、企業、若者等、多様な主体との連携をさらに推進するとともに、それぞれのニーズを把握しながら継続的な協働関係の構築に努めていく必要がある。

・パートナーシップミーティングは県補助事業としての実施終了後も同様に企業とのつながりが作れるような事業の実施に務めていく必要がある。また、生まれたつながりを確実に発展させられるよう、交流会形式の開催にとどまらず１対１のつながりを実現するような企画の実施が望ましい。既存の手法にこだわらず多くの企業や団体等とのコーディネートにも注力していくことが重要である。

・補助金制度のリニューアルにより、協働の意識向上につながったと思われる。今後は地域、企業、若者等、多様な主体の連携を積極的にコーディネートし、そのための各主体のニーズの把握と適切なアドバイスができるスタッフを応募時から配置する等、市民活動団体が必要な支援を確実に受けられる体制構築が必要である。

Ⅲ まとめ

令和７年度は、ＵＭＥＣＯ企画展やアクティブサロン、ＵＭＥＣＯ祭り、市民活動入門講座、夏休みボランティア体験学習等、多様な事業を継続的に実施し、市民活動への参加や関心を高める機会を幅広く提供した。特に企画展及びアクティブサロンでは目標値を達成し、市民活動団体が活動内容や成果を発表する場として十分な役割を果たしている。また、通常相談や出張相談会、補助金活用講座等を通じて団体活動の継続や発展を支援するとともに、高等学校等への働きかけやボランティア体験学習等、次世代の担い手育成に向けた取組を継続的に実施するこができた。

協働支援の分野では、地域とのネットワーク事業において放課後子ども教室等とのマッチングを積極的に実施し、市民活動団体の活動機会の拡大に寄与した。また、県西地域の自治体と連携して実施したパートナーシップミーティングでは、多様な主体が交流し、新たな協働の可能性を探る機会を創出するとともに、他地域の活動事例や取組を学ぶ機会にもつながっている。さらに、情報誌やＦＭおだわら、ホームページ等を活用した情報発信を継続するとともに、設立１０周年を契機としてＵＭＥＣＯの役割や存在意義を改めて広く発信した。

一方で、企業との具体的な協働事例の創出や若者の継続的な活動参加、相談機能のさらなる活用促進等については課題が見られる。企業との連携についてはイベント等への協力にとどまらず、地域課題の解決や社会貢献活動につながる協働事例の創出が求められる。また、若者については各種事業への参加機会は提供されているものの、継続的な活動参加や人材育成につながる仕組みづくりが期待される。相談事業においては高い解決割合を維持している

一方で相談件数は目標値を下回っていることから、相談機能の強化と利用促進に引き続き取り組んでいく必要がある。

また、パートナーシップミーティングや団体交流会等の交流事業については、交流の場の提供にとどまらず、参加者のニーズを丁寧に把握し、１対１のマッチングや継続的なフォローアップを通じて具体的な協働での事業発展につなげていくことが重要である。既存の利用団体だけでなく、参加実績の少ない団体や新規登録団体への働きかけについても強化が必要である。

ホームページやＳＮＳ等による情報発信については発信するだけでなく、その効果や閲覧状況を把握しながら継続的に改善を図ることが重要である。検証を行いながら、市民活動に関心のある市民や、これまでＵＭＥＣＯを利用したことのない層にもおだわら市民交流センターＵＭＥＣＯの役割や市民活動団体の活動情報が届くような情報発信が必要である。

以上のとおり、市民活動団体への支援や市民活動への参加機会の提供に加え、市民活動をより継続的かつ発展的なものとするためには、地域活動団体、企業、学校、行政といった多様な主体との協働を促進し、その後の活動展開までを見据えたコーディネートが重要である。おだわら市民交流センターＵＭＥＣＯには、市民活動への参加のきっかけづくりから、活動の伴走支援、協働の促進、地域課題の解決につながる取組までを一体的に支援する拠点として、今後もその役割を発揮されることを期待する。また、設立 10 周年を契機として、これまで培ってきたネットワークやノウハウを活かしながら、新たな担い手の育成や協働の創出を進め、市民活動のさらなる発展と地域社会の活性化に寄与することを期待する。